



## ボランティア活動

企業としての社会貢献活動だけでなく、社員ひとりひとりが自分の身近なところや関心がある分野でボランティア活動に取り組むことをめざしています。ボランティア活動への参加をサポートするため、社内へボランティア情報を発信しています。

### 声の花束

視覚障害をもつ人々や活字メディアによる情報入手が困難な人々のために、さまざまな情報を人の声で配信するインターネットサイト「声の花束」に、社員が音訳ボランティアとして参加。女性の健康情報の音訳を受け持っています。

(主催 日本フィランソपी協会)



### 第3回千代田区福祉まつり

千代田区内の企業が共同で運営するコーナーで、物品販売やゲーム担当のスタッフとして参加。福祉まつりの収益金は千代田区社会福祉協議会に寄付され、地域の福祉事業に役立てられました。

(主催 第3回千代田区福祉まつり実行委員会)

### 第23回全日本JBMAマラソン小田原大会

視覚障害者と健常者の合計600名がいっしょに走るマラソン大会に、視覚障害者ランナーのガイド役となる伴走ボランティアや、大会運営ボランティアとして参加しました。

(主催 日本盲人マラソン協会)



### 重度障害者レクリエーション

日頃、外出が困難な重度障害者の外出をサポートするボランティアとして、週末の1日を障害者の介助をしながら、中華街やよこはま動物園ズーラシアで過ごしました。

(主催 千代田区社会福祉協議会)

### 子どもの事故予防

国立成育医療センター(東京都)のプレイスペースで、子どもたちの見守りボランティアを行いました。来院者の多い夏休み、ゲームや展示と一緒に遊びながら子どもたちの身近にある危険について伝えました。

(主催 国立成育医療センター)

## パキスタン地震

2005年10月、パキスタン北東部で発生したマグニチュード7.6の大規模地震では、パキスタンだけで死者7万3,000人以上、負傷者8万人以上、被災民約330万人にのぼり、さらに被害はインド、アフガニスタンにも及びました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、避難所生活を送る子どもたちの病気の予防やこころのケア、教育の再開などの支援として、ユニセフを通じて330万円を寄付しました。

また、アメリカ本社およびアジア・パシフィック地域のジョンソン・エンド・ジョンソングループからは、寄付金と製品合わせて約4億円相当を送りました。



## フィリピン地滑り

2006年2月、数日間降り続いた大雨が引き金となり、フィリピン南東部レイテ島で大規模な地滑りが発生しました。ギンサウゴン村をはじめ周囲の村々に被害は及び、死者・行方不明者は合わせて1,000人以上、多くの人々が生活基盤を失いました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会は、ユニセフに寄付金140万円を送り、子どもの生活や健康をサポートする活動に役立てられました。

また、アメリカ本社とアジア・パシフィック地域のジョンソン・エンド・ジョンソングループからは、寄付金と食料など約400万円相当を送りました。



写真提供：財団法人日本ユニセフ協会 © UNICEF Philippines